


星合操  
官能の美学

星合操



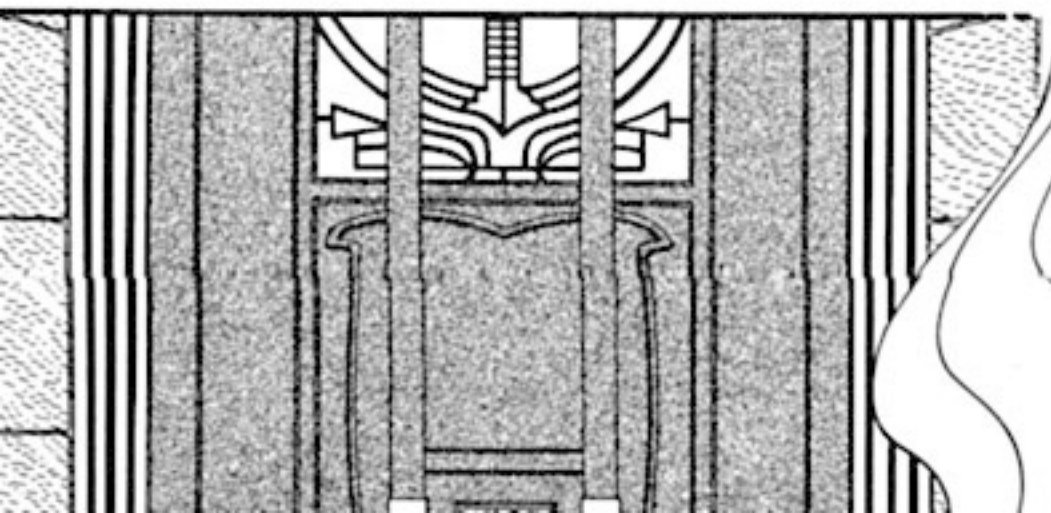
パンドラの館





私は  
こつそりと  
彼のあとを  
つけた

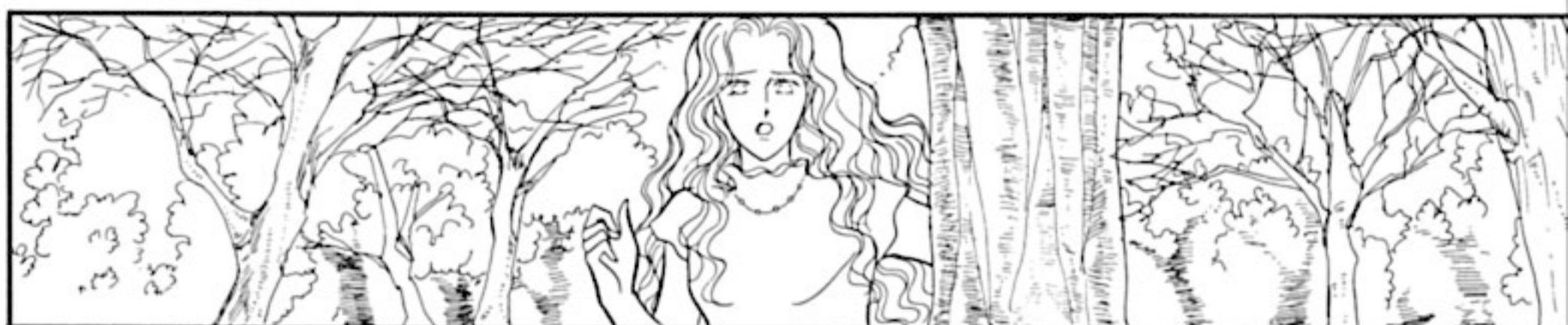
そこの空







門が開き  
彼の姿が  
玄関の中に消える



いえ  
私の心は  
彼を追って  
いたわけじゃない

私の中から  
湧きあがる衝動が  
私をドアに  
向かわせた



彼を追って  
玄関のドアに  
近づくと

ノブに  
手をかける



私は  
反射的に  
駆けだしていた

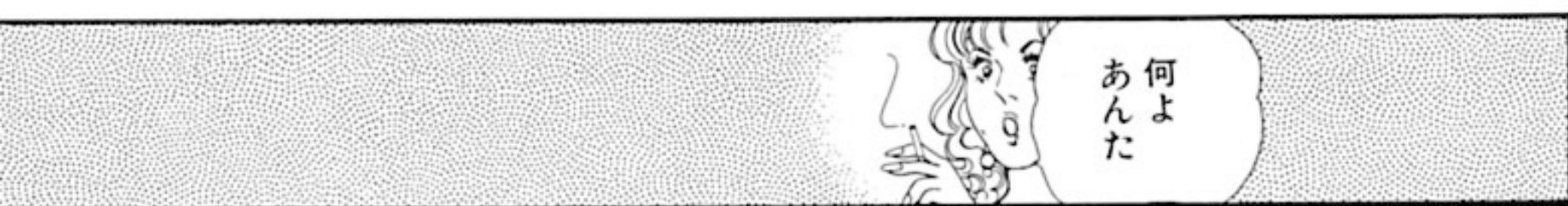




私にドアを  
開かせた



ロビーに  
たむろする  
女達が  
一斉に  
私を見る




何よ  
あんた




私の体に  
うずまく衝動が  
私の口から  
飛びだした

私を  
ここで  
働かせて  
ください

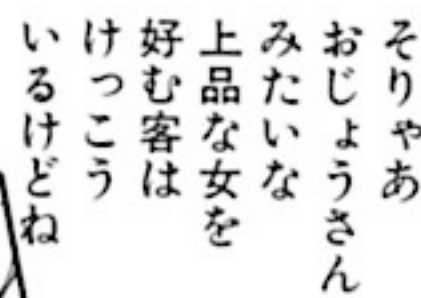





ちよつと  
おじょうちゃん  
ここがどこだか  
知ってんのぉ？



ここが  
何をする所か  
わかってて  
やってきたの？

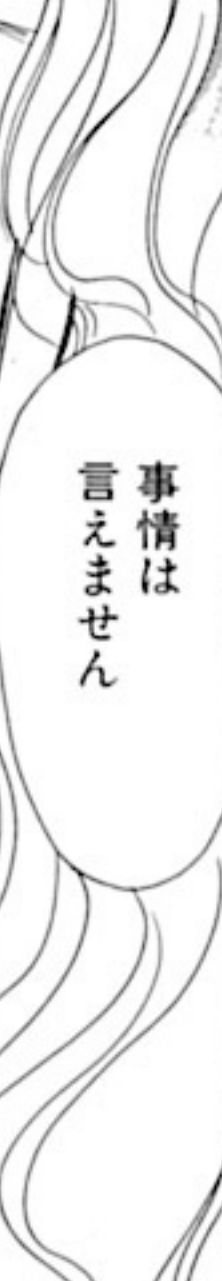


そりやあ  
おじょうさん  
みたいな  
上品な女を  
好む客は  
けっこう  
いるけどね




もちろん


わかってます



事情は  
言えません



でも  
私は  
娼婦に  
なりたんです



でも  
あんた  
お金に困ってる  
ふうにも  
見えないし  
なんだって  
また…



それは  
私に  
とりついてしまった  
願望だった

見知らぬ者同士の  
情事という…  
妖しい誘惑に  
私は逆らう事が  
できなかつた



こっちにおいで

年配の女が  
私をロビーの奥の  
階段へ  
連れていった

扉があつた

コッソリ…  
コッソリ



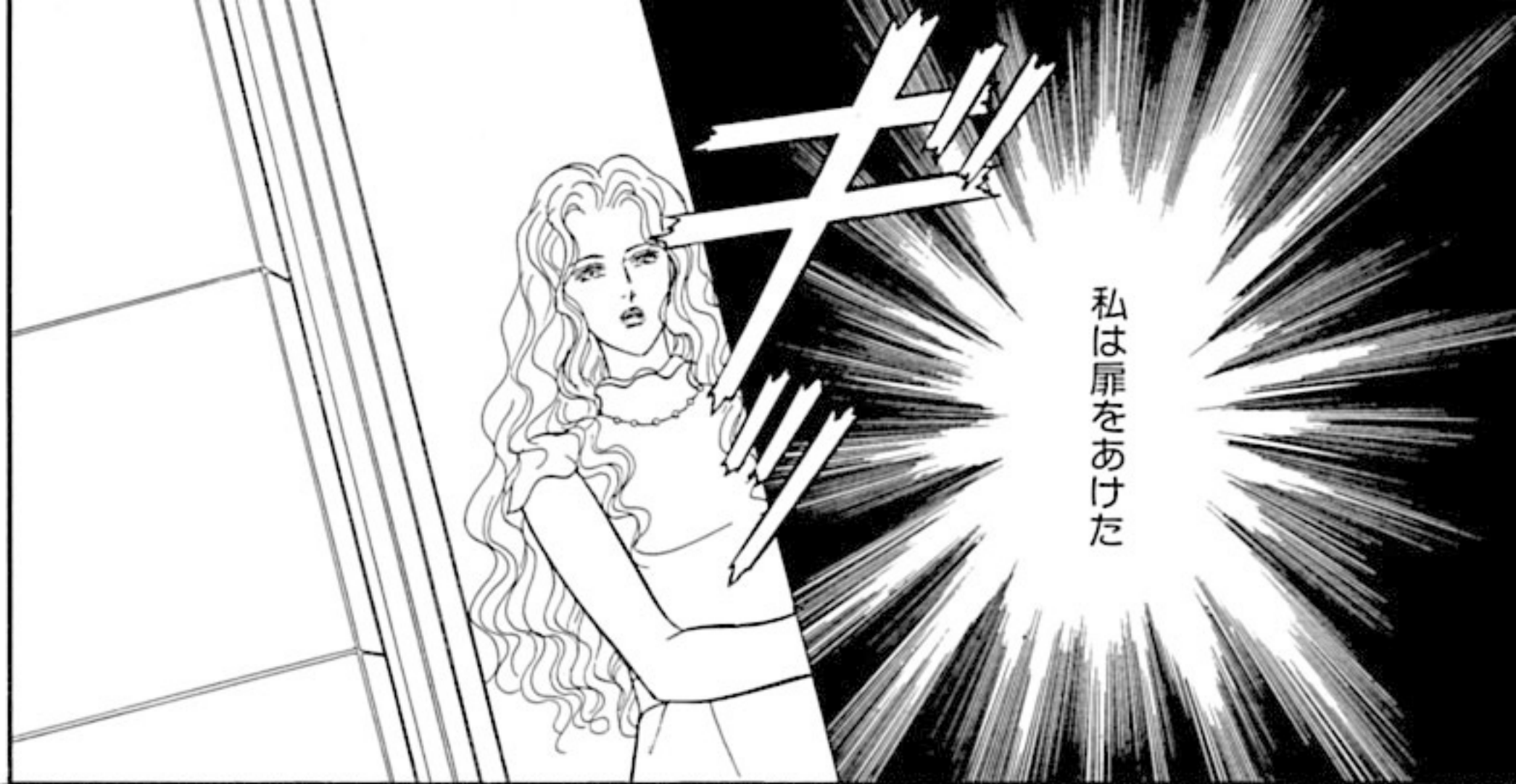
この中に入って  
奥の部屋を  
覗いてごらん



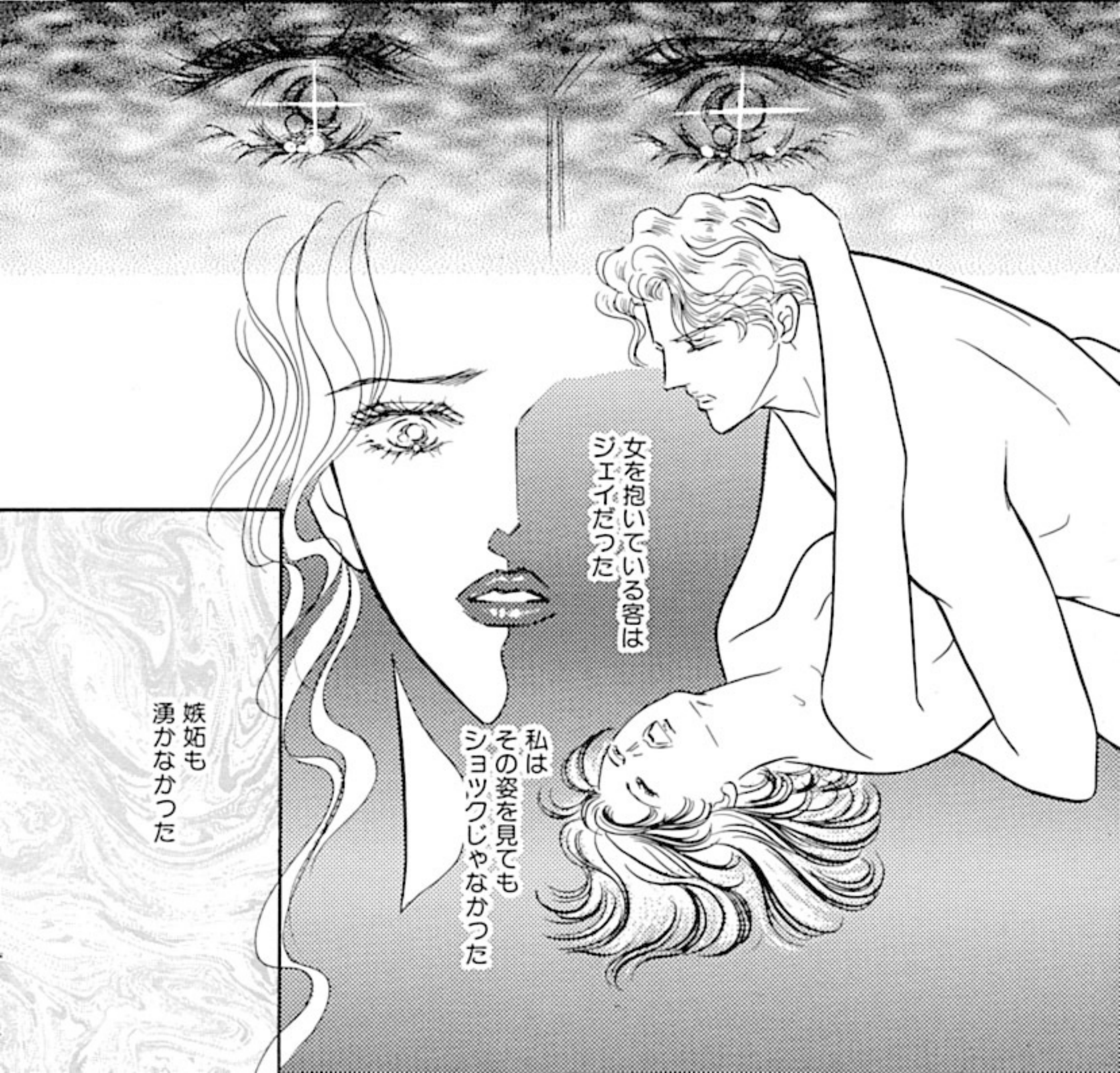
ここが何を  
する所か  
その目で  
確めて

自分に  
この仕事か  
できるのかどうか  
もう一度  
考えてごらん





私は扉をあけた



女を抱いている客は  
ジエイだった

私は  
その姿を見ても  
シヨツクじゃなかった

嫉妬も  
湧かなかつた